

# 多摩デポ通信 第24号

特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩

2012年10月20日発行

〒182-0011 調布市深大寺北町一・三一・一八

●HP / <http://www.tamadepo.org/>

●E-Mail [depo\\_tama@yahoo.co.jp](mailto:depo_tama@yahoo.co.jp)

八王子市中央図書館で  
広域の多摩地域資料  
(旧都立多摩所蔵)が  
よみがえった!

読売新聞多摩版8月15日  
で報じられました。同日  
から八王子市中央図書館で、  
2年前に都立中央図書館か  
ら同市に引き取られた広域  
の多摩地域資料の公開が始  
まっています。

これは以前には都立多摩  
図書館が収集に努めていた  
都内全域の行政・地域資料  
群の一部です。自分の自治  
体に関する地域資料は当然、  
各図書館とも収集していま

すが、かつては都立多摩図  
書館に行けば、都内の全域  
資料が各自治体別に公開書  
架に並べられ、比較し一覧  
することもできました。(そ  
の元には、都立多摩が19  
87年に開館するまで多摩  
の地域資料の担当館をして  
いて、都立多摩の開館によ  
って廃館となった、旧都立  
青梅の収書があります。)  
2001年度から始まっ  
た都立図書館の再編計画で  
一度は都立多摩から都立に  
集められ、結局、「都立で1  
冊所蔵」「機能分担のため都  
立多摩では扱わない、持た  
ない」となり、「個別に各市  
町村に再活用(二払下げ)

## 第15回多摩デポ講座・見学会

# 八王子市図書館の英断 地域資料が残った!

2009年、東京都立図書館は都立多摩図書館の広域地域資料を処分すると発表、多摩地域の図書館長協議会や多摩デポは撤回を要望します。しかし、都立の方針は変わりませんでした。

八王子市図書館は、処分対象のうち多摩地域資料の大部分を譲り受け、「まとめて自館資料として公開」という英断をします。整理がすみ1万7千冊が一般公開されました。資料見学と残した経過をお話しいたします。

**11月16日(金) 午後1時30分~4時**

お話し: 中村照雄さん(八王子市図書館)

会場: 八王子市中央図書館3階視聴覚ホール

JR西八王子駅北口下車3分 電話 042-664-4321

参加費:無料 定員:30人 申込はメールかFAXで

NPO会員でなくても、どなたでも参加できます

するので欲しければ申込むよう」通知されたのは、2009年10月でした。

それから半年、多摩地域の図書館長の集まりである東京都立図書館長協議会（以下、館長会と表記）は、「地域資料群を散逸させる再活用方針の撤回と、都立として多摩地域で一括での再公開することを求める要望、併せて、都立の将来の資料保存のあり方について市町村と都立で協議できる場の設置の要望」を行ない、個別市町村の申込みはせずに、交渉を重ねました。当時「多摩デポ」も同趣旨の要望書を作り、理事長と事務局長が都立中央図書館に要望に向きました。都立は締切こそ延長したが、多摩市町村が個別の資料に手を出さなければ区部に声をかけ都立学校に声をかけ残りは処分する、と動きませんでした。だが（一括で）

どこが引き取れるでしょう。

そんな中で八王子市が館長会にした提案は、7万6千冊の再活用資料群のうち、多摩分野の資料2万4千冊は一括で引き取り、一括で公開を図る、というもの。館長会は「都立の責務を訴えつつも、散逸を防ぐため」八王子市の英断を館長会として是とし、「都立には資料の設置を要望」しました。また、青梅市立図書館は旧都立青梅図書館資料千7百冊を引き取り、この八王子市、青梅市の引き取り後、7市ほどが落ち穂拾いに出かけました。

### データ公開され書庫の壁一杯に1万7千冊

それから2年半。八王子市は、都立から提供された書誌データが使えなかったため、緊急雇用対策の補助

金により、資料にデータを付与したそうです。前から書庫にあった自館資料を大幅移動し、一部は館外に移して、この広域多摩地域資料を中央図書館書庫に収めました。扱いは、データは館内の検索機や図書館ホームページから検索可、館内利用、極めて希少価値のあるもの以外は求められれば協力貸出には出す（他自治体の利用者は取り寄せられない）、とのことでした。

### 11・16見学会参加を！ 書庫の中に、はいれます

公開を始めて2ヶ月、「元の都立資料を」「広域の多摩の資料を」と言って、目当てに来館する利用者が月に百人程度は見かけられるとのこと。この問題にずっと関わった中村照雄さんにご案内いただきます。ぜひ見学会にご参加ください。

### 第14回多摩デポ講座

～参加者から

### 電子書籍の現状と

図書館

調布市立図書館

戸張裕介

8月5日、NPO法人共同保存図書館・多摩（通称…多摩デポ）による講座「電子書籍よ、さようなら 凛とせよ公共図書館」が東京都調布市内にある市民プラザあくろすで開かれた。

7月に楽天から電子書籍端末が発売され、一層電子書籍の利用が見込まれる中、その流れとは逆行しているともとれる講座名だった。しかし、内容は今後の図書館と電子書籍について新たな関係性を予見させるものであった。

講師は、武蔵野美術大学

の非常勤講師で主にデータベースを専門としている堀越洋一郎氏、日外アソシエーツから、図書館へのデータベース販売などを行って、図書館事情に詳しい星俊雄氏が招かれた。

## 電子書籍の現状と問題点

### 堀越洋一郎氏

堀越氏はプロジェクトで電子書籍の画面を実際に映写しながら、電子書籍の現状を再生方法の種類や問題点を含め、以下の通り明らかにした。

- ・ハードウェア・ソフトウェアの規格等変更・VHSのように規格が旧態化したときや、OS・ビューアが更新されたときに閲覧ができなくなる可能性がある。
- ・ネットワーク環境・ダウンロードと再生を同時に行うストリーミングの場合、インターネットにつながる

環境がないと閲覧ができない。使用する端末が増えた時にネットワークが負荷に耐えられないかという問題もある。

- ・ストレージ（保存方法）…保存先から読みこめなくなる可能性がある。（例、フロッピーディスクドライブを取り除いたパソコンが増えたため、外付けのドライブがないと読みこめなくなっている。）また、クラウドを利用した時の保証は十分かという問題もある。

- ・ファイル形式…PDFやPDF、.docなど様々な形式のファイルが存在する。端末やビューアに対応していないファイル形式は閲覧できない。

ファイル形式以外に文字コードや、フォント、静止画、動画などもファイルの形式によっては閲覧や再現ができない。外国製のフォーマットの場合、日本語特

有の縦書きや読点などの書式を充実させるのかといった懸念もある。

- ・購入方法等…閲覧できる期間が決まっているものもあり、その期間が過ぎた場合再度購入しないと閲覧できない。月額課金制でコンテンツを提供するものもある。

- ・版…奥付の何刷という表示がなくなるのはもちろん、訂正の履歴なども残らない。
- ・リフロー（レイアウトの変更）…これは問題点というわけではないが、ファイルの形式によっては利用者自身で書籍のレイアウトを変更できる。

- ・索引…索引は検索に置き換わる可能性がある。索引は一種の目次のような役目も果たしているため、不便を感じる可能性がある。

- ・著作権…デジタル化による著作権は誰が持つことになるのかという問題がある。

また、紙の書籍をデジタルデータ化する自炊による個人的な利用はどこまでできるのか、青空文庫、コンテンツ内のリンク先の本は閲覧できるのか、といった問題もある。

- ・図書館での問題…2週間経ったら自動的に閲覧ができなくなる、OSなどにより閲覧ができないといった問題があるため、利用者に閲覧の保証ができるのかという問題がある。

このように問題点ばかり羅列すると、電子書籍への不信感が募るが、不都合なことばかりではなかった。特に印象に残っているのが、堀越氏の操作による、動画や音楽も一緒に提供されるマルチメディアデータを体験したことであった。図表をクリックすると動画が流れるといったもので、電子書籍の利点も感じることができた。

## 図書館と電子書籍

星俊雄氏

最初に、図書館は電子書籍に対して何らかの判断をしなければいけない時期にきていると強く訴えた。そして、電子書籍でのサービスを取り入れている図書館の事例なども交え、図書館が電子書籍のサービスを始める際の問題点を説明した。

- ・資料選択、収集ルートの制限…どこの販売先と契約するかによって、図書館の業務（収集、選択、保存、提供）のうちの収集、選択が制限されてくる。
- ・閲覧期間の設定…閲覧期間を過ぎると再度購入しなくてはならない。また、貸出回数に応じた支払いといったことも出ている。
- ・著作権への配慮…千代田区立図書館の事例を挙げた。この図書館は千代田区立図書館

図書館の他に千代田WEB図書館というホームページを立ち上げている。その利用案内の「著作権について」という項目で「電子図書館の公正な利用と著作権の保護を両立するために、デジタル著作権管理(DRM)システムを導入しています。」と謳っているとのこと。

また、それとは別にインターネット時代の新しい著作権保護のルールの確立を目指すクリエイティブ・コモンズ・ライセンスについての紹介があった。

もともと個々の消費者に向けて作られた電子書籍をどのように図書館に取り入れていくのか関心をもっていったが、星氏は多摩地区の図書館がまとまって業者に見積もりをとるのはどうかという提案をされた。その中で、この提案の利点は、複数の図書館で団結し、

知る権利の保障といった観点から業者と交渉できる。

- ・個別に導入するよりも費用を低く抑えることができる。

という点が挙げられ、電子書籍導入の助けになると感じた。

この講座に参加して、全文検索や、地域資料などの保存方法の多様化、場所や時間を問わずサービスができるといった電子書籍への期待と、現実とのギャップを感じた。

電子書籍と図書館について、図書購入費の縮小など各自自治体の事情はあるが、現状での問題は3点あげられるように思う。1、様々な電子書籍の規格が混在し今後変化が予想される中の閲覧の保証。2、著作権への対応。3、個々の利用者に向けて作られた電子書籍をどのように図書館で資料として扱うかというこ

とである。

しかし、図書館コンソーシアムを作ること、千代田区のWEB図書館の例など、図書館と電子書籍の新しい付き合い方が垣間見えた講座であった。

『みんなの図書館』

2012年11月号掲載、著者の許可を得て転載)

図書館総合展ポスターセッション  
今年も出展 パシフィコ横浜  
11月20日(火)~22日(木)

ブックレットNo.3の著者 芳賀ひらくさん、  
「デジタル鳥瞰 江戸の崖 東京の崖」を  
講談社から8月に刊行。  
国分寺崖線、府中崖線が出てきます。

## 書庫訪問

くにたち図書館

南市民プラザ分室の

書庫公開

くにたち図書館南市民プラザ分室は国立市の南部、泉町2丁目にある都営住宅の一階にあります（延床面積・535㎡）。もともとは災害時の避難所としての機能も考えられていたのとこので、閲覧フロアの大部分が畳敷きというちょっと珍しい図書館で、親子でくつろぐ光景が見られます。書庫以外の蔵書数は約1万5千冊、うち児童図書が約8千冊です。

以前から、国立市図書館協議会の提言もあり、2012年3月の試行を経て、7月から市民への一般公開が開始されました。昨年度、国の交付金（平成22年度地域活性化交付金―住民生活に光をそそぐ交付金、いわゆる「光交付金」）700万円のうち、約500万円を活用して、図書購入をはじめ書架の購入や整理のための人件費などにあて、公開に向けての整理作業をすすめてきました。

公開は、第2・4土曜日の午前10時から正午の2時間です。対象は中学生以上の市民で、入場手続きはカウンターで入館者受付簿に氏名を記入して、入館タグを着用し、職員の案内に従って入場します。飲食物・カバンなどの荷物はカウンターで預けます。

以前は未整理資料などが積み上げられていた部分も

すつきり整理され、分類順に図書が整然と並んでいました。書架の表示も大きく見やすくなっています。



書庫内の蔵書は一部を除き貸出可能なので、思わぬ資料に出会った時はラッキー！という感じです。OPACで検索してピンポイントで資料を引き出すのとは違い、ああ、こんな本があったんだ、とかこの全集の欠本はどうしたのだらう、とか市内の保存資料の全体が見えてきます。

南分室は甲州街道の南側

にあり、市内の北側や駅周辺からはけっこう行きにくいのですが、5、6人の入場者がある日もあり、資料の貸出もあるとのこと。これまであまり活用されていなかった書庫と資料が、公開されることによって、新たな光をあてられ、利用を掘り起こしたと言えます。もっと広く市民にPRし、サービスが定着すれば、利用者も増えるのではないでしょう。

多摩地域では、東村山市の萩山図書館がやはり月2回日曜日の午前中2時間の公開を実施しています。

書庫の施設配置上の問題、書架からあふれた本や未整理図書の置き場、人手など、現状では、それぞれに課題はたくさんあると思います。が、他の市町村でもできる範囲で書庫公開がもっと広がることを望みます。

（事務局 田中ヒロ）

国分寺市では書庫蔵書本の大半の都立・他市との重複数を調査しました

### 前国分寺市立

本多図書館長 堀渡

「多摩デポ」がテーマにしている、蔵書の共同利用を

（たまたま持っていた本の相互協力）から一歩進めることは、とても大事な課題だと思います。現在の図書館という事業の見識や力量が問われる、（待ったなし）の課題。図書館で長く仕事をしていたら、（ああここに道をつけなければいけない）と誰でも思うようなことではないでしょうか。

都立図書館がイニシアチブをとり自治体に協力を求める共同保存・利用の仕組みが考えられていいと思いますが、残念ながら現状ではそうなっていない。

私は多摩の館長会が作った

「共同利用図書館」構想やNPOの「共同保存図書館」構想を大事にし、都立に検討開始を求め、同時に、各自自治体も今からその理念を踏まえた、蔵書保存と除籍の日常運用を行なっていくべきだと思っています。

国分寺市では昨年度には書庫蔵書の大半について都立と他市町村立図書館との重複所蔵数を調査しました。今年度はその結果をもとに、書庫の整理・圧縮に取り組み始めています。それを報告します。

### 課題ある図書館施設を使いこなしながら

当市の面積は約12平方キロ弱、市立中学校5校に5つの図書館は早期に設置されましたが、未だ中央図書館がない。そして計画的に作られた閉架書庫は、もともと地域館として想定され

た本多図書館（960平米）の一角（46平米）だけです。

他に光図書館で、かつて冷暖房設備が入っていた地下空間に機械撤去後、集密書架を入れて書庫として使っています。詰め込んで、2館の書庫で約8万冊を収容しています。他に、事務室の一部を書庫としたり、フロアの高書架を書庫としたり。そんな施設基盤なので、書庫収納率は100%以上。全館とも（書庫入れ）は市内の最後の一冊本に限るという運用をしています。つまり書庫から除籍すれば、市内にはその本はなくなりません。

### 書庫蔵書の都立・他市重複調査行なった理由

新しく本を入れれば、置くスペースをフロアに作らねばなりません。そのスペース作りのため（この段階

で重複や汚破損で除籍するものもありますが）書架から書庫に移すには、書庫内の間引き作業を日常的に行うしかありません。ベテランの「一冊本除籍担当」が集団で各館書庫から除籍候補本を抜き出しています。しかし、回り切れなくなり、除籍を上回る（書庫入れ）が常態化しつつあります。

単純に時間がないのではないのです。どれが、都立や他自治体で所蔵が少ない本か、常に除籍にはリスクが伴います。当然、（価値論先行）で行いがちな、自館で残したい本・除籍していない候補の本、という判断だけでは立ちいかない。

当市にも中央図書館や未設置地域の新館建設等への期待・理論構築と運動は今でもありますが、近い将来に具体的な書庫拡張が望めないとなれば、現状の書庫に大幅な空きスペースを作

り出すことに正面から向き合うしかありません。

また、数年前から都の緊急雇用補助金を活用して毎年1館ずつ蔵書にICタグを貼付してきましたが、後回しにしてきた書庫本にもいよいよ貼るべき時期が迫ってきました。予算確保は厳しく、「貼ってまた短時間のうちに除籍」ということはとてもできません。

### 緊急雇用を活用し書庫単行本大半を横断検索

昨年度は書庫蔵書の一般書のうち個人全集などを除く5万4千冊を都立図書館の横断検索で重複数を調べました（調査から外したのは、必ず残すと判断した本）。作業者には「調査結果に基づき、利用者に提供できる本が多摩地域内に一冊もなくなることを防ぎながら、保存スペースに限りある図

書館の蔵書を適切に除籍することができると「ISBNデータの記入ある資料はISBNをキーにして検索」「もともとISBNデータの記入ない資料は書名（タイトル）をキーにして検索」「幾つの自治体で所蔵していたか所蔵自治体数を記入を」と指示しました。

都立のシステム更新の時期と重なって横断検索が出来ない時期があり、あせりました。調査の結果は、都立・他自治体で全く未所蔵は2千余冊、3冊以上重複は4万3千余冊と出ました。

### 重複調査結果に基づき書庫所蔵本の選り分け

今年度は昨年度の調査結果に基づき、さらに緊急雇用を活用して書庫の除籍候補本の選り分け作業を行います。「一般書の中で文芸書は、出版後20年以上経過

したもので、その他の分野は出版後10年以上経過したもので、都立図書館と多摩地域図書館で合計4冊以上所蔵している資料を除籍候補とする」と指示する予定です。

都立・市町村合わせて3冊以下の本は文句なく残す。さらにベテラン職員が点検

し、残す本の追加をしてもらう。残すことにした個々の本に、今の時点で何冊重複だったか記したシールを貼る。選別後、ICタグを貼っていく予定です。図書館にとっても本を生かすべき司書にとっても、厳しい判断の先取りをする作業が続きます。

## 多摩デポブックレット

在庫あります 活用して下さい

- No. 1  
公共図書館と協力保存 安江明夫
- No. 2  
地域資料の収集と保存 保坂一房
- No. 3  
「地図・場所・記憶」 芳賀啓
- No. 4  
現在を生きる地域資料 平山恵三  
蛭田廣一
- No. 5  
図書館のこと、保存のこと 竹内哲  
梅澤幸平
- No. 6  
図書館の電子化と無料原則 津野海太郎
- No. 7  
多摩を歩いて三七年半 山田優子

突然廃刊し惜まれる、アサヒタウンズ記者の講演録。原紙を保存する図書館一覧付。

## 東日本大震災 支援活動その後

継続して取り組んできた陸前高田市立図書館郷土資料救済支援活動（22号と23号の通信で報告）のその後の動きについて、岩手県立図書館から入った情報をお知らせします。

乾燥・ドライクリーニング・消毒の応急処置が済んだ津波被災資料は、第3期の活動として岩手県内で次の作業が実施されています。

### 【図書、図面等】

富士大学・盛岡大学震災復興支援ライブラリーネットワークが、8月28日から盛岡大学で、デジタル化及び複写の作業を開始。デジタル化等の作業終了後は、次の修復の手はずが整うまでの間、県立博物館の冷凍庫に保管される予定。

### 【写真類】

震災当初に陸前高田市立博物館のものと一緒に陸前高田市立図書館の写真類が運び出され、修復団体「陸前高田被災資料デジタル化プロジェクト」で修復されていることが判明。今回の写真類も同団体に送付。修復後は、先に修復を進めていた写真類と一緒に陸前高田市教育委員会へ返還される予定。

図書はデジタル化及び複写作業後に、現物修復等さらなる取り組みが行われる見込みですが、詳細については未定です。多摩デポとしてお手伝いできることがあるかどうか、まだ分かりませんが、新たな動きがありましたら、また皆様にお知らせします。

なお「陸前高田被災資料デジタル化プロジェクト」が10月13日朝日新聞夕刊

「窓 論説委員室から」で紹介されています。資金的支援・物的支援・作業支援を求めているとのこと。

[http://tsunami-311.org/?page\\_id=9](http://tsunami-311.org/?page_id=9)

「多摩デポ」ML始動！  
みなさんどうぞ活用を

前号でご案内の通り、メーリングリスト（ML）を始めました。多摩デポからの情報配信だけでなく、会員の皆さんも私たちの活動と関わる内容なら、発信していただけます。情報共有の場としてご活用ください。

第15回多摩デポ講座のご案内を近日中に発信します。YahooのID登録をすれば、過去のメールを読むなど便利な機能を使うこともできます。チラシ等のファイル添付もできます。

## ★会の現勢

12年10月1日現在

### ●会員

（個人会員104名）  
（団体会員3団体）

### ●賛助会員

（個人44名）  
（団体2団体）

総会以降、続々と会費を振り込んでいただいておりますが、まだの方は入金をすみやかに、どうぞよろしく願います。

### ●年会費

正会員（個人・団体）

五千元

賛助会員一口 二千元  
（個人一口団体五口以上）